

Ⅲ. ベトナム国家大学ハノイ外国語大学への教員派遣事業

1. 派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	水垣源太郎	奈良女子大学研究院人文科学系人文社会学領域 准教授
研修生	関春菜	奈良女子大学文学部人文社会学科 3 回生
研修生	田島知世	奈良女子大学文学部人文社会学科 3 回生

2. 派遣期間

平成 25 年 11 月 25 日(月)～12 月 1 日(日) 7 日間

3. 概要

平成 25 年 11 月 25 日(月)～12 月 1 日(日)の日程で、ベトナム社会主義共和国ハノイ市を訪問し、ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学東洋言語文化学部 (Faculty of Oriental Languages and Cultures, University of Languages and International Studies, Vietnam National University, Hanoi)において、「日本語と日本人の社会心理学」と題する集中講義を行った。

外国語大学では、Ngo Minh Thuy 先生、Dao Thi Nga My 先生、Tran Thi Minh Phuong 先生に特別のご配慮をいただいた。これらの先生方のご厚意に深く感謝したい。

今回は、学部指導学生 2 名を同行し、外国語大学の院生および学生との交流を図った。本講義の受講生は大学院生 11 名であったが、その中にはすでに同大学学部講師として教鞭をとる者も 2 名あり、同講師が担当する学部 2 年生および 3 年生のクラスにも参加した。さらにその授業後には学部 2 年生との交流を行った。また同時期にベトナムを訪問した鈴木広光教授に同行した本学大学院生 Manh Thi Thanh Nga 氏には我々もたいへんお世話になった。

また昨年に引き続き、筆者自身の研究のための現地質問紙調査を行った。調査内容は日本とベトナムにおける社会関係資本の比較である。調査結果は関係大学に報告する予定であるが、こうした成果が相互理解の発展に寄与することを願っている。

4. 講義内容

講義は、11 月 26 日(火)～28 日(木)の 3 日間、それぞれ 08:30～11:00 に、「日本語と:社会心理学の観点から Văn hóa tổ chức của Nhật Bản: từ quan điểm tâm lý học xã hội」と題して行った。講義は日本語で行い、資料は日越併記で作成した。

講義は、石黒圭『日本語は「空気」が決める』(光文社新書、2013 年)を素材としつつ、それを社会心理学の観点から捉え返す内容とした。石黒によれば、日本語の会話では、状況や相手との関係を示すヒントやサインに気づくことが重視される。発話する側もまたそうしたヒントやサインを自分の発話に組み込むことで自分の性格を表現しようとしている。つまり、場面や状況、相手の性別や相手との上下関係に応じて、「ふさわしい日本語」を用いることが重要である。では、そうした「ふ

「さわしい日本語」を日本人、とくに日本の若者はどのように用いているのか、その戦術あるいは戦略には、彼らの自己意識や社会規範が作動しているのか、を考察した。具体的な授業計画は次のとおりである。

【授業計画】

11月26日(火)

はじめに(導入) 08:30~09:40

・自己紹介、授業の概要、現代の日本社会の基礎知識

第1回 性別と世代:若者言葉 09:50~11:00

11月27日(水)

第2回 上下関係と親しい関係:敬語 08:30~09:40

第3回 場面 09:50~11:00

11月28日(木)

第4回 性格(キャラクター)の表現 08:30~09:40

奈良女子大学の紹介、レポートについて 09:50~11:00

講義の第一日目前半では、導入として講師の個人的経歴を紹介し、1960年代から80年代における私的経験を話した。受講生の関心が高い現代日本の若者文化がこの転換点の延長として理解できることにも触れた。次に、背景となる知識として、日本の近代と社会変動の諸相、とくに、人口集中と過疎化、教育と社会階層、家族形態の変化、生活水準の上昇と消費生活の変化、少子高齢化の諸側面について、具体例を交えながら説明した。さらに、その帰結として、現在の日本人の意識がおおまかに3つの世代によって異なり、現代の若者が上の世代とどのような関係にあるのかを論じた。

第一日目後半では、「性別と世代:若者言葉」と題して、ジェンダーを表現する語彙とそれを用いる文脈を説明した。SNSにおける女性の「僕」「俺」の使用例などを挙げ、同行学生の実演や解釈を交えながら、テンポの重視や共感志向といった若者のコミュニケーションの特徴を説明した。

第二日目前半は、社会関係と人間関係について論じた。言語が単に社会関係および人間関係の表現であるばかりでなく、その調整やコントロールを意図して戦略的・戦術的に用いられることを印象管理など社会心理学の語彙を用いて論じた。

第二日目後半では、こうした上下関係や親疎の関係の具体的なありようも必ずしも厳格なものではなく、家庭、学校、職場、結婚式など場や場面によって変化し、言葉の種類もそれに応じて使い分けられることを説明した。

第三日目は、自己表現の語彙とアイデンティティの問題を扱った。日本語は人称表現の種類が非常に多く、どれを選ぶかによって、話し手の自己意識や、話し手と聞き手の関係の現れ方が異なり、一人称の人称表現の選択には、話し手のアイデンティティが現れるといわれている。また方言も単に言語の地域的差異を表現するだけでなく、アイデンティティ表現の一手段として戦術的・戦略的に用いられる。そこで、アニメやマンガの登場人物の自己表現と学生の実演や解釈を示しながら、自他のアイデンティティに関する印象とその操作について論じた。

最後に、これらをとおして、若者の自己不安や他者との関係性の特徴をまとめた。その後、学生による奈良女子大学の紹介を行った。

参考資料

外国語大学東洋文化学部「奈良女子大学コース」試験問題 2013年11月30日

【最終レポート課題】次の3点を含んだレポートを作成しなさい。

- (1) 授業の内容を各項目ごとに要約しなさい。
- (2) 授業の内容の中で、あなたが勉強になった点について述べなさい。
- (3) その他、授業の感想があれば自由に述べなさい。

【成績評価基準】

次の4つの評価項目(a)～(d)のそれぞれについて、A=9, B=8, C=6, D=4, F=2の5段階で評価し、それらの平均点を総合評価点(10点満点)とする。

- (a) 4回の授業の内容を正確に要約しているか。
- (b) レポートの構成(文章になっているか、段落分けが正確か)
- (c) 授業を通して学んだ点を具体的に表現できているか。
- (d) 日本語表現が正確か、意味の通らない表現がないか

(以上)